

中野区教育委員会会議録

令和4年第5回定例会

令和4年2月4日

中野区教育委員会

令和4年第5回中野区教育委員会定例会

○日時

令和4年2月4日（金曜日）

開会 午前10時00分

閉会 午前11時08分

○場所

中野区役所5階 教育委員会室

○出席委員

教育委員会教育長 入野 貴美子

教育委員会委員 岡本 淳之

教育委員会委員 田中 英一

○欠席委員

教育委員会委員 伊藤 亜矢子

教育委員会委員 村杉 寛子

○出席職員

教育委員会事務局次長 青山 敬一郎

参事（子ども家庭支援担当） 小田 史子

子ども・教育政策課長、学校再編・地域連携担当課長

濱口 求

指導室長 齊藤 光司

学校教育課長 松原 弘宜

○書記

教育委員会係長 香月 俊介

教育委員会係 伊藤 芽依

○会議録署名委員

教育委員会教育長 入野 貴美子

教育委員会委員 岡本 淳之

○傍聴者数

7人

○議事日程

1 議決事件

- (1) 第11号議案 令和3年度中野区教育委員会表彰表彰状被表彰者の決定について
- て
- (2) 第12号議案 定期異動に伴う中野区立学校校長及び副校長の内申について

2 報告事項

(1) 教育長及び委員活動報告

- ① 1月10日 2022年中野区成人のつどい
- ② 1月12日 中野区町会連合会「新年のつどい」
- ③ 1月14日 中野校長会との意見交換会
- ④ 1月21日 中野区総合教育会議
- ⑤ 1月21日 「学校教育向上事業」研究指定校研究発表会（中野東中学校）
- ⑥ 1月22日 中野区立中学校連合作品展
- ⑦ 1月28日 みらいステップなかの視察
- ⑧ 1月28日 「学校教育向上事業」研究指定校研究発表会（鷺宮小学校）

(2) 事務局報告

- ① 陳情書の受理について（子ども・教育政策課）

○議事経過

午前 10 時 00 分開会

入野教育長

それでは定足数に達しましたので、教育委員会第 5 回定例会を開会いたします。

議事に入ります。

本日の会議録署名委員は岡本委員にお願いいたします。

本日の議事は、お手元に配付の議事日程のとおりでございます。

ここでお諮りをいたします。

本日の議決事件の第 1、第 11 号議案「令和 3 年度中野区教育委員会表彰表彰状被表彰者の決定について」及び議決事件の第 2、第 12 号議案「定期異動に伴う中野区立学校校長及び副校長の内申について」は、いずれも人事に関する案件でございますので、非公開での審議を予定しております。

したがって、日程の順序を変更し、第 11 号議案及び第 12 号議案の審議につきましては、日程の最後に行いたいと思っておりますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

ご異議ございませんので、日程の順序を変更し、第 11 号議案及び第 12 号議案の審議を日程の最後に行うことといたします。

それでは日程に入ります。

<教育長及び委員活動報告>

入野教育長

報告事項に入ります。

初めに、教育長及び委員活動報告をいたします。

事務局からご報告願います。

子ども・教育政策課長

1 月 10 日月曜日、2022 年中野区成人のつどいに入野教育長が出席されました。

1 月 12 日水曜日、中野区町会連合会「新年のつどい」に入野教育長が出席されました。

1 月 14 日金曜日、中学校長会との意見交換会に入野教育長、岡本委員、村杉委員、田中委員が出席されました。

1 月 21 日金曜日、中野区総合教育会議に入野教育長、伊藤委員、岡本委員、村杉委員、

田中委員が出席されました。

1月21日金曜日、中野東中学校の「学校教育向上事業」研究指定校研究発表会に入野教育長、岡本委員が出席されました。

1月22日土曜日、中野区立中学校連合作品展に入野教育長が出席されました。

1月28日金曜日、みらいステップなかの視察、こちらに入野教育長、伊藤委員、岡本委員、村杉委員、田中委員が出席されました。

1月28日金曜日、鷺宮小学校の「学校教育向上事業」研究指定校研究発表会に入野教育長が出席されました。

以上でございます。

入野教育長

しばらく活動報告がございませんでしたので、たくさんございますが、各委員から補足、その他活動報告がございましたらお願いいたします。

田中委員

今、報告があった中で、私も幾つか参加してきたので、報告させていただきます。

一つ目は、中学校長会との意見交換会に参加しました。久しぶりに校長先生方と顔を見ての懇談会で、大変踏み込んだ話ができかなと思っています。

先生方からそれぞれの報告がありましたけれども、このコロナ禍でいろいろなマイナス面もあるけれども、一方でこういった中でプラスの面もあったという報告がありました。

例えば休業期間があったりとか、なかなか顔を合わせる機会が少なかったりということ、学校で日常的に行われている先生や友達との対話が少なくなったことで、かえって人との関わりを大切に生徒さんたちが感じるようになったところは、プラスだったということもおっしゃっていました。

また、全てが指示されない中で、自分なりに生徒さんたちが考えて、それぞれ主体性を持って行動するというような意識もかえって芽生えたのではないかという、そんなご意見もありました。

もちろん、上級生との関わりが少なく、学年間の交流がなかなかとれなかったとか、そういったマイナス面もありましたけれども、でもいろんな制約の中で、先生方と生徒さんたちがいろいろ工夫しながら取り組んでいるということがよくわかって、大変いいというか、厳しい中でいろいろ努力してくださっているなど感じました。

これからこの経験を生かして、リモートでの授業と、あるいは対面での授業と、うまく組

み合わせたりすることも必要でしょうし、先生方も連絡事項を、ICTを使うことで、働き方改革につながる部分があるとか、いろいろこれからこの経験を生かして、またやっていただければいいかなと感じました。

それからもう一つは、中野区総合教育会議に出てきました。現在の教育大綱が決まって以来の中野区総合教育会議でしたので、少し久しぶりの会議でした。

今回基本構想が新しくできたということ、あるいは社会の状況も変化したということで、それを踏まえて、今後新しい教育大綱をつくろうということ、区長のほうから幾つか、教育の目指すものということで、こんなことを考えていらっしゃるということが報告されました。

それについて、いろいろ意見交換をしたところですが、地域全体で子どもの生きる力を育むとか、多様性を尊重して自己肯定感を育む。あるいは全ての子どもに、一人ひとりに応じた学力、体力向上を目指すという、この三つの柱を区長のほうから提案されました。

それぞれについて、いろんなディスカッションがありましたけども、この一人ひとりに応じた学力、体力という言葉が、例えば、ただ成績が上がればいいのかという、そういう捉え方をされてしまうのではないかという感じを私は受けたのですけれども、やはりそれぞれの子どもたちの伸びしろというのがあると思うので、全体の、80点が90点になるということではなくて、例えば60点の子が70点になる。あるいは100メートル何秒で走れた子が、0.何秒でも早く走れるようになる。そういった取組をするということが大事だという意味では、こういったテーマを掲げるというのはいいのかなと感じたところです。

それからもう一つ、みらいステップなかのの視察にも参加しました。新しい施設で、図書館と幾つかの施設の複合施設ですけれども、2月1日に図書館がオープンするということで、視察をしたのが1月28日でしたので、もうほぼ蔵書もきちんと整理されて、すぐにも受け入れられるような状況での視察でしたので、とてもよくいろんなところの工夫がわかりました。

特に本を読んだり、資料を検索したりという図書館の機能のほかに、子どもたちが少し声を出しても安心して過ごせる場所だとか、あるいはミーティングができる。そういった施設だとか、それからあとは少し食べたり、話ができる。そういうスペースだとか、いろんな機能を持ったスペースがあって、図書館の本来という言い方が正しいかどうかかわからないですけれども、本を読んだり、借りたりという以外の機能がいろいろ盛り込まれている

施設だなど感じました。これからさらにいろいろ区民の方に利用していただいて、発展していく可能性を感じたところです。

それからあとは教育支援室等の、児童相談所等のほかのフロアも見学しましたが、これはみんな図書館とは別の動線で入ってくるようになっていて、利用者の方が変わらないように工夫されていましたし、それから6階が総合受付ということで、全てそこに最初に行って、そこからそれぞれのフロアに行くというシステムになっていて、これもとてもいいシステムだなど感じました。

それから職員の執務室というのが大変広くて、今まで区内でも何カ所かに分かれていた職員の方たちがここに全て、このワンフロアに集まって仕事をされているということで、もう既に仕事をされていましたけれども、何かあったときにすぐ、前は電話で話をしていたのが、今すぐそばに行って、机のところで顔を突き合わせていろんな連携がとれるということで、とても働きやすいということをおっしゃっていました。それがきっと子どもたちのいろんな支援にもつながっていくのかなと感じたところです。

ほかのフロアもそれぞれにいろんな工夫がありましたけれども、ちょうど教育支援室では、お子さんたちが来て、学んでいるところがありましたけれども、とっても開放的で明るくて、子どもたちも気持ちよくここへ通って、学べるのではないかなと感じたところです。

以上です。

岡本委員

私も報告させていただきます。全て申し上げるので、長くなってしまうかもしれませんが。

まず中学校長会との意見交換会についてです。一斉休校を経て、コロナ禍の時代だからこそ学校に行けて、みんなで学校生活を送れることの大切さに気づけたというお話がありました。これまで学校に行くのは当たり前であり、なんだったらちょっとめんどくさいなと思っていた子たちもきつというののですけれども、実は当たり前だと思っていたことは、幸せなことだったのだな、それを大事にしよう、と思えたのは、一つポジティブな経験だったのかなとは思いました。

他方で、新しい経験だからこそそのストレス環境も生まれているというお話もありまして、心配です。生徒の悩みが多様化している。昼夜逆転など、生活習慣の乱れも見られるということ、校長先生方は、心配されていらっしゃいました。

世の中、本当に大きく変化しているときに、行政も含む、学校教育全体のあり方が、これまでどおりでやっていっていいのかなと。当たり前ですと言っていましたけれども、当たり

前でなくなってしまう場面が出てきている。そのときに、子どもたちと学校、行政も含む学校教育の溝ができてきてしまうことが心配されました。もっとこういう大きな視点からの話し合いというのを、みんなできればいいのではないかなと考えた次第です。

個別には、コロナ禍だからこそできることというお言葉もありまして、本当に勇気をいただいたと思います。運動会を例えば生徒に任せると、どんどん自分たちで新しい種目を考えて、密にならないように、実際にそれでもう1日運動会やりましたというお話もあつたりしました。子どもを信じて、子どもに任せて、子どもを主語にした学校をつくっていらっしゃることに、とても感銘を受けました。

他方でちょっと気になったのが、特に中学校になると、生徒会を中心に動かれることが多いと思うのですが、生徒会に行くような子は、もともとチャレンジングな子が多いのではないかなと思います。ICTも活用して、どんどん世の中のいろんなこととつながれる時代ですので、もともと前向きなチャレンジングな子は、どんどん外につながって、自分の可能性を広げていけると思うのですけれども、他方でおとなしかつたり、あんまり目立ちたくないなと思っている子もやっぱりいます。そういう子たちとの格差が広がるのが心配だなと思いました。できるだけ「目立っている子が目立っているから、うちは活発だ」で終わるのではなく、そうでない子たちもいろんな体験ができるように、リーダー体験ができるような取組をしていっていただけるといいのかなと思いました。

これは残念な話なのですけれども、一部の学校で、うちは古風な学校なのでとか、先生のICTスキルがまだまだでというお話もありました。そう認識されているのであれば、校長先生として何ができるのか。何をしなければならないかということを考える必要があるのではないかなと思います。

中野区内でも各校の取組に相当ばらつきがあるということも、正直わかりました。もちろん一斉画一にしなければいけないと言っているわけではなくて、各校が目前の子どもたちの実態を受けて、必要な教育活動を考えて取り組んでいっていただきたいと思うのですけれども、何かにチャレンジをするのか。このままでいいと思うのか。そこで大きな分かれ目ができるのではないかなと思います。もっと各校の実態を把握できる機会があればなとも思いました。

続いて、中野区総合教育会議についてです。さっき田中委員から内容についてはご報告いただいたので、私はちょっと違うところからなのですけれども、率直な意見交換はできたと思うのですが、さっきのお話にもあつたように、学力、地域、多様性といった言葉につ

いて、区長が考えていらっしゃる、イメージしていらっしゃるのと、私たち教育委員が考えていること、もっと言うと教育委員の中でも、きっとイメージしていることは、ばらばらだったのではないかなと思いました。

議論する土台、前提として、例えば学力というのは、今こういう検討がなされている。国のレベルでは、OECDではこういったことが今大事にされているみたいな資料があって、それを共有できた上で検討できると、より、ではこの中で、中野区にとって何が必要なのかということを考えやすいのかなとも思いました。その資料のご準備というのを、今後検討いただければと考えたところです。

例えば、地域なのですけれども、一般に地域というと、学区のことをイメージすると思うのですが、「社会に開かれた教育課程」と学習指導要領で言われているように、またICTも使えば、学区を軽く飛び越えることもできますから、その整理の仕方というのを、文部科学省が最近言っていて、エリアコミュニティというのが立地上の地域、つまり学区ですね。そのほかにテーマコミュニティ、それぞれの学校の教育目標や内容に関わる地域ということも整理をされていました。こうやって、「地域とは」と漠然と言うのではなくて、整理することで、検討もしやすくなるのかなと考えた次第です。

あと、内容ではないのですけれども、机の配置が教育委員側と区長側、びしっと分かれています、何か対決姿勢のような、そうではないですよ。そうではないと思うのですけれども、協働してみんなでつくっていきこうというときに、机の配置は案外大切です。教育相談やファシリテーションの現場では、きっといろんな蓄積がありますから、もうちょっと協働的な議論ができるような机の配置を検討いただければなとも思いました。

続いて、中野東中学校研究発表会についてです。新型コロナウイルス感染症の影響で、いつもは各教室回って、授業を見学させていただいたりするのですが、それがなくなりまして、かわりに体育館にいて、各教室を先生がカメラを持って、ライブ中継をする。体育館で映して、それを視聴するというものがあつたりしました。また事前にパンフレットにQRコードがありまして、それをスマートフォンで見ると、授業の動画、ダイジェスト版とかが、編集されたものが流れてくる。なかなか本当に、新しい授業のイメージがすごくよくわかった次第です。

発表の中にも、予測不可能な時代だからこそチャンスがあるというお話がありまして、非常に勇気をいただきました。特に感銘を受けたのが、中野東中学校では、常に最良を探求する生徒の育成を目的としているというお話です。ややもすると、ICTをツールとして

使いこなす姿を見て、この子たちはICTを使いこなしているからよしと思いがちなのですけれども、本当の目的はそうでなくて、その場で必要な学び方を、自分で選ぶことができる。鉛筆とノートが必要な場面もありますし、タブレット端末のほうがより学べる場面もある。そういったいろんな学び方を、その場で、自分で考えて選び取る力が大切なのだと思います。主体的・対話的で深い学びの「深い学び」は、ややもするとスルーされがちなのですが、常に最良を探求する生徒でこそ、深い学びができていくのだなということがわかりました。

また操作法も、先生が生徒に教えてもらっているという話がありました。もちろんICT機器って、子どものほうが、習熟が早いですよね。習熟が早いとわかっているのですけれども、先生は自分がわからないから、「ちょっと待って」と言いがちなのですが、もうそこは生徒に聞く。それが徹底されていて、それも本当に生徒を主語にした、対等に学び合う関係を目の当たりにしました。

ついでなのですが、新型コロナウイルス感染症対策ということで、教育委員としてお邪魔したのですけれども、校長室でお茶もなく、お花もなく、ほっとしました。研究発表会で偉そうにしたいわけではないですし、先生方の邪魔もしたいわけではないです。私も学ばせてもらいたいと思って伺っていますので、ただでさえ忙しい先生方の余計なお手間をかけたくないです。来賓の扱いは、あれで十分ではないかなと思いました。

これもついでのついでなのですが、統括指導主事や指導主事の方に、研究発表会に行くのに車で連れて行っていただいたり、ドアを開けて待っていただいたりするのです。本当にもったいないと思います。貴重な人材の無駄遣いです。現地には自分で行きますし、ドアも自分で開けられますから、指導主事の方こそ、学校と教育現場をつないで、中野区の教育の質の向上に最も適した働きをしていただかなければいけない方々です。率先して学んで、学校現場や教育委員会にその学びを還元していただかないといけないので、ぜひもっとクリエイティブな仕事に時間を割いていただきたいと思います。私はむしろそのお手伝いをしたいと思いました。研究発表会のあり方、中野型、ぜひ見直していきたいと思えます。

あと、みらいステップなかのの視察についてです。これも田中委員に、詳細にご報告いただいたので、私は印象だけなのですけれども、特に子ども・若者支援センターや教育センターでは、たくさんの方が働いていらっしゃるって、施設も充実しているということは、この施設がフル稼働するぐらいの困難を抱えている家庭や子どもたちがいるのだな。そういう

想定があるのだなということを目の当たりにしました。ただ数字で「何人の児童虐待が」というだけではない、リアリティの一端に触れた思いです。今後、稼働されてからも、引き続き学んでいきたいと思いました。

以上です。

入野教育長

長くなりますが、私のほうも幾つかお話をしたいと思います。

まず私たち教育委員会が関わってきた後の子どもたちの成長というのでしょうか、を成人のつどいで見させてもらいました。始まる前に、それぞれの出身の中学校の先生方が出てきて、いろいろご挨拶をしていただいたということもよかったなって思いますし、新型コロナウイルス感染症の心配の中、昨年より2部制に分けて、いろいろなことを配慮した中ですが、昨年よりも多くの方が成人年齢の人数は減っているのですが、多くの方に出席していただいたことがありがたかったなと思います。態度も非常によかったかなと私も思って、見せていただきました。

さらにそれを支えてくださっている方々の集まりにも、今回は何回か出まして、町会連合会、それから19日には保護司の方々、2月2日には民生・児童委員さん方の集まりに出席する機会がございまして、活動が非常に困難な中、それぞれの活動が、ややもすると停止しがちな中、子どもたちのためにいろいろやっけていただいていることに感謝申し上げます。

学校の様子でございますけれども、たまたま今回は今お話があった1月21日の中野東中学校と、私が行きました1月28日の鷺宮小学校が、両方ともICTに関わる研究発表ということで、それもコロナ禍の中なので、ごく絞ったといいますか、研究発表のあり方も随分変えて行っているところでございますけれども、子どものそれぞれの姿を見ることで、これからこういう授業が行われ、子どもたちがこう育っていくのだなというものの一端を見たような気がいたします。

鷺宮小学校のほうは、すごく感動したのは、小学校3年生がもう完全にブラインドタッチでどんどん打って、自分の意見を書いて、3年生というとローマ字を習うか習わないかぐらいのときだと思うのですが、そういうような状況の子が何人もいるということ。それを楽しんでいるように見えました。そういう姿の子どもたちが、今度中野東中学校に行きますと、堂々と私たち参観者に向かって発言をしたり、授業の中でも当たり前のように使って、よく「道具である」と言うのですが、完全に道具として使っている

なという印象を持てる授業でしたし、授業自体が明らかに変わっている。先生方の捉え方も変わってきているなというのを感じた次第です。

いずれにしても、教育の目標というのは、さっき岡本委員からお話がありましたように、常に最良をと、小学校においても、教育目標自体は今までとある意味変わりません。要するに、教育の目指すところというのは変わらずにしっかりと持っていて、その時代に応じた質の高い教育をいかに模索していくかということだったかなと思います。いずれにしても、先生方のご努力とともに、子どもたちの成長を感じましたし、それを感じて、先生方もまたさらに努力したり、成長しているなという印象を持ちました。

次は、実は、新しいみらいステップなかの施設を利用したいろいろな催し物等を見る機会が、今回ございました。

一つは、1月22日の中学校連合作品展でございますけれど、10階の教育センターの中だけで9個全部、書写もあり美術もあり家庭科、技術もありという作品展でございました。いかがかなと思ったのですが、ちょうどいい広さで、一遍にいろいろな学校の状況が見られる。特別支援学級の子どもたちの作品も、しっかりとそこに飾られているということで、ちょうどよかったなとは思いました。密にならない程度に多くの方に見ていただいたということも感謝しておりますし、非常に印象に残ったのは、特別支援学級の子どもたちの木工ですとか、スウェーデン刺しゅうですとか、書き初めもよかったかなと思います。

目についたのは、沈金という方法で装飾されたものがあつたりとか、お盆があつたりとか、金びょうぶがあつたりとか、浴衣があつたりとかと、和のテイストのものと、それから子どもたちがつくったロボットのものを飾ってあつたりということで、いろいろなことを子どもたちが、文化も学ばし、新しい技術も学んでいっているのだなという印象を持ちました。

その後、こちらに戻ってきました、なかのZEROの中の展示室でしょうか、小学校のほうで書き初め展をやっておりましたので、そちらはそちらでまた見せていただきました。狭いところですので、全校ではなくて半数だったかなと思うのですが、非常にいい作品が多かったかなと思います。

さらに、みらいステップなかの、先ほど来のお話がありましたけれども、私自身は児童相談所とか相談業務の部分については、これからどう生かすかが問題で、確かにいい施設にさせていただいたのですが、どう子どもたちのために伝えていけるかが、これからの課題かなと思いました。

図書館も2月1日に開館いたしまして、実は2日に、図書館はお邪魔して、見てきております。

後で報告もあるかもしれませんが、両日とも開館前に数名の方にお並びいただき、お待ちいただくような状況の中でしたが、一番上のコワーキングコーナーから埋まっていくという感じはいたしました。そしてその後、お子さま連れの方々が入っていらっしゃるという感じでございます。

入り口に、隣の中野東中学校の美術部が壁面に絵を描いてくれていましたので、そういうところに迎えられて、温かい雰囲気ですごく上がっていきまして、一番上のところで、何人かの方々はご自分の飲み物を片手に、パソコンを置いてお仕事をしていたり、1人だけの世界の椅子があるのです。そこで新聞を読んでいるりゃったりとか、そういう光景もありましたし、あとは高校生、中学生が、ちょうど2月1日、2日なので、私立に通っている方は学校がお休みのようで、朝からしっかりと勉強をしにいらしている様子があって、「どうですか」と何人かの方にお聞きしたのですが、非常に快適だということと、「連日来ています」というお話がありました。あとはまだ実績がないようですが、会議室なんかも使っていただくとありがたいかなとは思ってきました。

そんな中で、小さいお子さんに対して、子育て支援アドバイザーの資格を持った職員がおりまして、その方が、お母さんが多分本を選んでいらっしゃる間ですかね。連れていらしたお子さんに読み聞かせをしている場面ですとか、お父様とお子さんが、ちょうどそういう椅子がありますので、お互いに本を読んでいる姿ですとか、それからここに出ていますように、多摩産材と、東京の木でできているハウスがあるのですが、そのハウスの中で、親子で本を読んでいる姿ですとか、たくさん見ることができまして、ここも上手に皆さんに使っていただいて、さらに育てていただく図書館になるといいなという思いを持ちました。

以上でございます。ありがとうございました。ほかにはよろしいでしょうか。

特に発言がなければ、委員活動報告を終了いたします。

<事務局報告>

入野教育長

続いて事務局報告に移ります。

事務局報告の1番目「陳情書の受理について」の報告をお願いいたします。

子ども・教育政策課長

教育委員会宛ての陳情書を令和4年1月17日付で受理いたしましたので、ご報告いたします。

陳情者は、「中野子どもと教育を守る区民の会」です。

陳情の趣旨は、1点目が「教育委員と区民とが気軽に懇談をできる場を設けてください。例えば、教育委員会がテーマ・日時・会場を設定して区民に対話・懇談を呼びかけたり、子どもと教育に関わる区民や団体の要望に応じて意見交換の場を設けてください」というもの。2点目が「以前行われていた、教育委員会での傍聴者発言を復活させてください」というものでございます。

陳情理由等の詳細については、資料をごらんいただければと存じます。

ご報告は以上でございます。

入野教育長

ありがとうございます。なお、本陳情の取り扱いにつきましては、今後教育委員会で協議をして、決定していきたいと考えております。

ただいまの報告につきまして、質問、ご発言がありましたらお願いいたします。本日のところはよろしいでしょうか。

それでは後日、協議をしてまいりたいと思います。

本報告は終了いたします。

事務局からその他報告事項はございますでしょうか。

指導室長

区内幼稚園、小中学校の新型コロナウイルス感染症の感染等に関する学級閉鎖の状況を報告させていただきます。

今年の1月に入ってから延べの学級閉鎖数ですが、区立幼稚園で1園、1学級ございました。小学校は16校、48学級です。そのうち四つの学年で学年閉鎖もございました。中学校は4校、8学級です。そのうち一つの学年で学年閉鎖がございました。

また本日、2月4日現在、学級閉鎖となっている学級数ですが、区立幼稚園につきましては、閉鎖の学級はございません。小学校は12校、22学級で学級閉鎖となっております。そのうち一つの学年で学年閉鎖を行っております。中学校は1校、3学級が学級閉鎖ですが、この3学級は同じ学年で、学年閉鎖を行っております。

次に学級閉鎖、学年閉鎖の判断基準でございますが、学級内で複数の陽性者が出ており、学級内にも体調不良の子どもたちが複数いるといった状況下で、学級内で感染が広がって

いる可能性が想定されるとき、またそのような学級が学年内に複数あり、学年内での感染が広がっている可能性が想定されるとき、学校医等の判断やご助言をもとに、学校と教育委員会が連携しながら、学級閉鎖、学年閉鎖の判断をしております

次に学級閉鎖の期間でございますが、おおむね数日から5日程度としております。この日数は土日祝日を含んだ日数です。

再開に向けましては、オンライン等で子どもたちの健康状況を把握した上で決定をしております。改善がされていないと判断される状況の場合は、学級閉鎖期間を延長することもございます。

東京都全体の感染者数の増加と同様に、区内の幼児・児童・生徒の陽性者数も増加している傾向が現在も見られております。

また閉鎖している学級では、学級担任等がオンライン授業を実施するなどして、しっかりと学習面、また健康面での対応をしております。私たちも学校へ指導主事を派遣するなどしまして、オンラインでの授業配信等をサポートしております。

報告は以上でございます。

入野教育長

ただいまの報告につきまして、ご発言がありましたらお願いいたします。

田中委員

大変な状況でご苦労さまです。学級閉鎖の数日から5日程度というお話でしたけれども、その辺の判断の目安を教えてくださいたいと思います。

学校教育課長

今、室長からご報告申し上げたような形で、当初文部科学省からの通知をもとに、原則5日から7日というものが、9月1日に出ておりました。中野区におきましても、9月3日の教育委員会のほうで、教育委員会事務局決定として、目安として出したものでございます。

そうしましたところ、昨日東京都から通知が参りまして、2月2日の文部科学省通知の内容として参ったものが、こちらの留意事項につきましては、5日程度を目安にという、そういう内容でございますので、ガイドラインを変えるもの、基準を変えるものではございませんが、学校医とよく相談して、感染状況を踏まえながら、柔軟な形での運用をしていくという内容でございます。

田中委員

あともう1点、今、社会的にも問題になってはいますが、先生方もお子さんが、例え

ば保育園に預けられないのでとかいう、ご自身が感染、あるいは濃厚接触者でなくても、そういう状況は結構あるように聞いていますけれど、その辺で何か子どもたちの教育に支障が起きているようなことは、現時点では特にはないということなのではないでしょうか。

指導室長

学校の教職員もやはり陽性や、家族が陽性者となり、濃厚接触者と特定されているような状況もあり、出勤できないといったような教職員も数名おります。まだ校内での補強等の体制で、何とか授業のほうはしっかり子どもたちには配信をしたり、当然対面での授業なども行っている状況ですが、この先増えてきたときに、どのような形で対応できるかというのは、今検討している状況でございます。

田中委員

よろしく申し上げます。

岡本委員

今ご報告いただいた中で、学級閉鎖の教室で授業のオンライン配信をされているということだったのですけれども、全ての学校の全ての学級で行われているのかどうかについて教えてください。

あと、閉鎖に至らなくとも、不安なので複数の子どもが休んでいる教室も少なからずあると思うのですが、そういったところでも同様に授業のオンライン配信がなされているのかどうかについて教えてください。

指導室長

今年度、補正を組ませていただきまして、全ての学級に授業配信用のルーターとタブレット端末を1台ずつ配布してございます。学級閉鎖になった学級は、全て普段の授業と同じ時数ではないのですけれども、可能な範囲で子どもたちの学びを止めないように、オンラインでの授業配信を行っております。

また各学校に新型コロナウイルスへの感染の不安で、学校に行っていないというお子さんがいた場合も、普段の授業の様子を、タブレット端末、ルーターを活用しまして、オンラインでの配信というのを可能な範囲で行っているところでございます。

岡本委員

細かいのですが、可能な範囲ってどれくらいですか。

指導室長

教室で行っている授業であれば、基本的には配信ということではできているのですけれど

も、やはり体育の授業ですとか、なかなかオンラインでの配信が難しいような授業もごさいますので、そのあたりは学校に来ていない、お休みしている子どもたちと連携をしながら、もう少し違う形でのサポートなど、各学校工夫して行ってくれている状況です。

学校教育課長

オンラインの授業の様子というのを、ある学校ですけれども、確認をいたしました。

そうしたときに、まず例えば15分間オンライン状態で、先生が子どもたちにいろいろな教え、あるいは指示をして、そして15分ぐらいたったところで、それでは、これこれこういう課題をやってみよう。そんな形で、子どもたちに、自分のほうで課題に取り組むような形で、そしてしばらくしてからまたオンライン状態にすると、そういうようなことをおっしゃっていた先生がいらっしゃいました。

岡本委員

ありがとうございます。よくわかりました。

今のお話の続きで、例えば一方的な授業のオンライン配信って、言わば一番ハードルが低い取組だと思うのですね。その次に相互交流という段階があると思うのですけれども、そういったことをされている学校等があるかどうか、もしもご存じでしたら教えてください。

指導室長

昨日、指導主事が学級閉鎖で訪問した小学校では、かなり使うことに慣れている担任のほうが、そこは学級閉鎖ではなかったのですけれども、自宅で、オンラインで、授業に参加している子どもからも発言をきちんと促して、実際教室にいる子どもたちも発言したいという思いもあった状況なのですが、その子たちを一旦止めて、画面上から自宅にいる子どもの意見を、学級の中でも共有して、授業を進める。そのような、かなり活用に慣れてきている先生もいますので、徐々にではありますけれども、そういったもう1段先のレベルを目指して、積極的な活用を進めていけたらというふうに考えております。

入野教育長

環境的には、全校が一斉ではないと思いますが、双方向でもやれる環境にあるということでしょうかね。

学校教育課長

ご指摘のとおり、全学校が一斉に双方向というのは、まだ現在の臨時的な対応というところでは難しいかとは思いますが、部分的というようなことであれば、可能な範囲で

実施していると聞いてございます。

入野教育長

環境的にはそういう状況だということでございます。

岡本委員

1人1台の意味って双方向にあると思いますので、環境面の話もハードルがあると思うのですけれども、できるだけ多くの教室でそういったことが実現できるようにしていただければと思います。

以上です。

入野教育長

ありがとうございます。他にございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは本報告は終了いたします。

事務局からその他報告事項はございますでしょうか。

子ども・教育政策課長

それでは、私からは中野東図書館の開館について、口頭にてご報告いたします。

先ほど教育長及び委員活動報告のでも触れていただきましたが、令和4年2月1日火曜日に中野東図書館が開館いたしました。当日は、開館時間の午前9時前から入り口に並ばれる方が複数いるなど、たくさんの方にご来館いただきました。

閲覧席で本を読まれる方や学習をされる方、また乳幼児を連れた親子、家族連れの方々など多くの方がいらっしゃいましたが、混乱もなく、順調に運用を開始しております。

ご報告は以上でございます。

入野教育長

本報告につきまして、ご発言がありましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

それでは本報告は終了いたします。

ここでお諮りいたします。

議決事件の第1、第11号議案「令和3年度中野区教育委員会表彰表彰状被表彰者の決定について」につきましては、人事に関する案件を取り扱うこととなりますので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項ただし書の規定に基づき、会議を非公開としたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

ご異議ございませんので、非公開とすることに決定いたしました。

引き続きお諮りいたします。

議決事件の第2、第12号議案「定期異動に伴う中野区立学校校長及び副校長の内申について」は、人事に関する案件を取り扱うこととなりますので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項ただし書の規定に基づき、会議を非公開としたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

ご異議ありませんので、非公開とすることに決定いたしました。

それでは、傍聴者の方々のご退室の前に、事務局から次回開催について報告願います。

子ども・教育政策課長

次回の教育委員会は2月18日金曜日10時から当教育委員会室にて開催いたします。

以上でございます。

入野教育長

それでは恐れ入りますが、傍聴者の方々はこちらで会場の外へのご退室をお願いいたします。

(傍聴者退席)

(以下、非公開)

入野教育長

以上で本日の日程は全て終了いたしました。

これをもちまして教育委員会第5回定例会を閉じます。

ありがとうございました。

午前11時08分閉会